

富士山ヒルクライム・サイクリング

■2008年8月5日：富士五湖めぐり

「河口湖」→「山中湖」→「西湖」→「精進湖」→「本栖湖」→「河口湖」(走行距離：96km)

■翌6日：富士スバルライン・五合目ヒルクライム

「河口湖」→「富士スバルライン」→「富士五合目」(標高2,305m、登坂距離27km)

■ライダー：山田幸祐、小林信雄



富士山ヒルクライム・富士山五合目への登坂、完走の達成感に感激の山田幸祐氏と小林信雄氏



日本最高峰の富士山。激坂「富士スバルライン・富士山五合目」登坂完走の記念撮影。



富士スバルライン料金所(標高 1,090m)。「激坂を登るぞー」と気合を入れる山田幸祐氏。料金所を過ぎるとすぐに勾配が7.8%、その先も勾配3~7%を繰り返しながら広大な富士樹海の登り、右に左に曲がりながら、ひたすら登る単調な景観が続く登坂路。観光バスが多く、バスの排気ガスと追い越される時の風圧を受けながら、我々人力のエコエネルギーが、地球温暖化のガソリン車に追い越される悔しさを噛み締めながらハーハー荒い呼吸を繰り返しながら全身で重いペタルを漕ぐ。登坂速度は7~10km/h。途中休憩5回、水と栄養補食を摂りながら登坂を続ける。

三合目まで登ると霧が濃くなる中、更にペタルを漕ぎ続ける。疲労度が増してくる。五合目に近づくと勾配はやや緩くなるが疲労が極限に達して疲労困憊状態、そしてついに五合目に到着である、登坂完走して「やったぞー」とばかりその達成感に大きな感動を得た。登坂時間は約5時間。

富士五合目を散策、昼食後に待望のダウンヒル開始。濃い霧の中をブレーキのみで35~40km/hの豪快なスラローム。ブレーキングに指が痺れて途中3回休憩。1時間の快走ダウンヒル、その醍醐味を存分に楽しんだ。



富士スバルラインの登坂ルート

霧が山肌を吹き登る富士五合目の登山道路。
霧のため富士山の雄姿や下界の山麓は観ることができなかった。



富士五湖めぐり。河口湖畔の民宿を出発、山中湖一周の後、大型貨物車両の交通量が多い 138 号線を西へ走り、西湖を一周。西湖畔のレストランで昼食、美味しい手作りハンバーグで満腹。食後に精進湖を一周回り、次の本栖湖へ向かって再び 138 号線を西へ走る。そして本栖湖へ到着、これで富士五湖めぐりの完走である。本栖湖からは帰路「河口湖」へ向かった。ここまで順調なサイクリングであった。

ところが、本栖湖からの帰路、西湖まで来たとたん、雷鳴とともに暗雲が広がり、不運にも土砂降りの雨が降り始めた。そこで小奇麗な喫茶店で雨宿り。同年輩の女主人と話が弾み、ケーキのサービスなど受けながら約2時間。それでも雨はやまず、やや小降りになったところで雨中帰路を決意。ところが小林信雄氏が雨具の携帯がなかったので困っていたところ、女主人が近所からレインコートを借りてきてくれた。お陰で河口湖の民宿まで濡れずに帰ることができた。心温まる親切、この幸運に大いに感謝した。民宿でも濡れた靴の乾燥、花火観覧、お土産など手厚いもてなしを受けた。地元の方々の人情に心温まる思いで今回のサイクリングを終えた。

